



学校だより

横浜市立桂台小学校
学校長 渡邊 勉
横浜市栄区桂台南1-1-1
TEL 891-8000

令和3年度 5月号

「素敵な本との出会いを」

校長 渡邊 勉

木々の若葉が一段と鮮やかさを増し、さわやかな季節になりました。新しい学年がスタートして早1か月が過ぎ、子どもたちはそろそろ新しい学年・学級にも慣れてきたようです。1年生も日に日に学校に慣れ、4月20日には1年生を迎える会に参加し、全校の子どもたちと顔を合わせ、桂台小の仲間入りをしました。在校生が温かく迎え、少し緊張している1年生の様子がとても微笑ましく感じられました。

私は、毎朝校門の前の横断歩道に立って安全指導を兼ねて子どもたちを迎えています。「おはようございます。」と自分からあいさつをする子や立ち止まってお辞儀をする子、道路を挟んで離れたところでも目を合わせて会釈する子が多くなったと感じています。とてもうれしく、朝から子どもたちにたくさんの元気をもらいます。あいさつは心のキャッチボールだと子どもたちには伝えています。桂台小学校が生き生きとした挨拶が飛び交う学校になるよう、引き続き教職員一同取り組んでいきたいと思えます。

4月中旬の朝会では、読み聞かせが始まることや毎年4月23日は「こども読書の日」であるという話を子どもたちにしました。今年度は4月22日の木曜日に1回目の読み聞かせがあり、読み聞かせボランティアの方々に全クラスで本を読んでもらいました。ボランティアの方は、子どもたちの興味を引くように上手に読んでくださるので、子どもたちは集中して静かに聞いています。毎回学年に合わせたよい本を選んで読んでくださるので、読み聞かせは子どもたちにとって、いろいろな本に触れる良い機会となっています。

「本は未知の扉を開くかぎ」とか「本は心の友だち」などと言われます。確かに私たちは本から様々な知識や情報を得たり、想像の世界に遊んだり、考え方のヒントをつかんだりします。本は、豊かな人生を送るうえで大きな力となっていきます。また、「読み」の力は読書と共に自然についてきます。しかし、読書は文字を読み、それを理解し、一定の形象を頭の中に組み立てる作業ですから、エネルギーも根気もいるので少しずつの積み重ねによる訓練も必要です。そのためには、まず本を読む楽しさを知るところから始められるとよいのではないかと思います。

4月23日の「こども読書の日」を始まりとして、5月12日までの3週間は、「こどもの読書週間」です。「こどもの読書週間」は、子どもたちに読書の楽しみや喜びを知らせたり、読書の習慣を身に付けさせたりするよい機会です。同時に大人にとっては、こどもの読書の大切さや良い本を与えるための努力について考える機会であるともいえるでしょう。

子どもが本を読む習慣をもつか否かは、周囲の環境によるところが大きいかもしれません。こどもの読書活動について学校と家庭で共に見直してみるのもよいと思います。まずは、連休中に本を手にとってみてはいかがでしょうか。